

幼稚園の送り迎へ

久米京子

四八

二人の子供を幼稚園に送つて迎へて、都合四年間、此の春末の子の修了式が終へるに共に、少々不穩當な言葉かも知れませんが、やつこのころ幼稚園から解放されたさういふ感じが致して居ります。ふり返つて見ますと、よくもこんなに勤めたものだし、自分乍らびつくりする位です。しかし、家にはかり閉ぢこもつて、比較的狭い範圍の人々との往來に終り易かつた者にまつては、これも確かにいふ経験でありましたし、その間に随分色々な耳學問や目學問をする機會を恵まれました。ですから、子供の爲の送り迎へがかへつて母親のための「送り迎へ」になつてしまつた様な氣が致して居ります。

此の「送り迎へ」學校で習得した色々な課程の中で、先づ第一に數へ上げる事が出來ますのは、社會の色々な種類の人に、比較的氣樂に接する事が出來る様になつた事と、そして少しばかり、社交技術を習得した事で御座います。第二には、兎角悠長に一日を送り易い家庭人が、「送り迎へ」學校の義務を負はされて、規則正しい生活を強制され、そ

れが習慣になつて來た事、第三は、環境と性格を異にする色々な母親に接する事に依つて、子供の扱ひ方、觀方さういふ事に就いて、實に多くの示唆を與へられた事でありませう。さる華族出の大學教授夫人、典型的に上流社會のお母様ですが、此の方が折にふれて口にされる「下々の子供」さういふ言葉は、さうも氣になつたものでした。又専門學校出のインテリ母親が「幼稚園へ勉強させてもらふ爲に入れた頂いたのに、先生は、これから毎日楽しく遊びませうとおつしやつた」さう云つて不平を洩らされるのも聞いたものです。それからまだ炭不足さういふ聲を聞かなかつた頃既に、嚴冬でも火鉢なしの生活をされるさういふ訓練主義の母親もありましたが、その子供の顔に何處さなく漂ふ疲勞の色は、さうも氣になつたものです。又或る時は、「榮養々々つて云ひますけれど、本に書いてある様な事を實際に實行していらつしやる方があるのですか」さう云つてびつくりなやつたお母様にも驚かされました。「教育熱心なお母様方が大勢いらつしやるので、私なごは到底及びもつかないから」さう云つて

悠々自適していらつしやるお母様があるかと思ふに、何でも彼でも自分の子供、自分の子供で押し出してゆく、自分の子供本位のお母様を目のあたり見て、その心臓の強さにあきれた事なきもありました。こんな事をしてゐるうちに、母親の方も自然と少しづつ、自分の側のひづみに気がついて來ます。さうして何處さなく足並みがそろひかけ、調子が整ひ出して來たかと思ふ頃には、子供の方はさんさん生長して、はや修了式さいふ事になり、折角の送り迎へ學校も一緒に修了さいふ事になつてしまひます。

小學校が國民學校に變つて、前にも増して家庭での教育が重要視されて來てゐる今日、私は幼稚園での「送り迎へ」學校を卒業してしまひました。この「送り迎へ」學校で授けられた課程が、貴重なものであつただけに、卒業を惜む氣持も残つて居ります。自分の事もかへりみないで、こんな事を書きまして、誠にお恥づかしく存じますが、子供ばかり國民學校で、母親が小學校の卒業生で居るのも變なものですから、國民學校、國民幼稚園に並行して、母親達の爲に、「國民」送り迎へ「學校」さいふ様なものゝ設立が、何處かの審議案に出て來ないものでせうか？、その國民「送り迎へ」學校では、以前の「送り迎へ」學校で、主として自然の感化による課業が授けられてゐたのに反して、既に計畫的な仕組みが用意されてゐるのです。そして此處の生徒である

母親は、自分の子供を通じて子供全體を觀、且考へることにを教へられ、そして子供全體を通してより高い精神の水準に到達し得る様に指導される仕組みが工夫されてゐるのです。こんな事は、少々贅澤に過ぎる夢でありませうか？。

入梅が上つたら、急に本格的な夏がやつてまゐりました。もうぢき夏休み、つゞいて例の保育講習會。暑い最中の講習會なんて門外漢からはうだるやうなお暑さを想像なさいませうが、例年の例を知つてゐる者には、一年一度の七夕ならぬ保育同志のなつかしい合ふ瀬です。講習會の廣告もご覧さつたと見えて、昨日今日、續々のお申し込みです。係員は多勢の同志をお迎へすべく、夫々手分けして着々準備を進めて居ります。今年の講習會は、國民學校の方も、幼稚園の方も皆、國民學校を中心としたものばかりです。この非常時局に當つて國家が大いに力を入れて實現しようとしてゐる我が國の教育方針をしかと把握しようと思はない人は無い筈です。こんな固苦しい意味はさておいて、一年一度の楽しい合ふ瀬をお待ち致して居ります。あのうだるやうな三伏の暑さも物かは、又一堂で勉強したり、夕闇迫る頃まで、愛いゝ子供等の爲に踊り抜かうではありませんか

日本幼稚園協會講習會係り